

和地ひとみレポート No.181

平成27年東大和市議会第4回定例会：一般質問『日本一子育てしやすいまちづくりについて』
「子育てしたい」と選ばれ、市民が誇れるまちに

■「日本一子育てしやすいまち」とは

…12月1日から開催されているH27年東大和市議会第4回定例会において、私は下記のテーマについて一般質問をおこないました。

■日本一子育てしやすいまちづくりについて

①「日本一子育てしやすいまちづくり」の具体的なイメージについて

ア：子育てしやすいまちづくりに関連する施策について

→具体的にどのような事業が関連すると考えるか。

→どのような部、課などが関係するのか。また、その連携は具体的にどのように行っているのか。

②「子育てしやすいまちづくり」の東大和市の現状と目標は。

ア：現在の東大和市の子育て環境はどのような位置にあり、また、市民、及び一般的にどのように認識されているのか。

イ：どのような状況になったら、目標である「日本一子育てしやすいまちづくり」が達成できたと考えるのか。

③「子育てしやすいまちづくり」の効果について。

ア：「子育てしやすいまちづくり」を推し進めることで、市全体としては、どのような効果があると考えているのか。

④今後について。

ア：この施策の先にある「まちづくり」全体に対する考えは。

イ：この目標を達成するための課題と今後の対策は。

…4月に行われた統一地方選挙で尾崎市長は「日本一子育てしやすいまちづくり」を前面に打ち出され、再選されました。女性の社会進出や活躍、少子化といった様々な課題には子育て支援は不可欠なものであり、また、将来を担う子ども達の育成に力を入れることは重要であり、大いに賛同できることです。

今までも、東大和市は様々な子育て支援に取り組み、実績もあげているところですが、さらに「日本一子育てしやすいまちづくり」を目標にどのようなことに、どのように取り組んでいくのか。また、東大和市全体にとって、この実現がどのような効果を発揮し、東大和市はどのように変わっていくのか、多くの市民が期待し、関心をもっていることは想像に難くないと思います。しかし、市長が最上段に掲げている「日本一子育てしやすいまち」の取り組みが、選挙後、半年以上経ってもなかなか見えてきていないと思います。そこで、今回は、市長が掲げている施策をより具体的に知りたいと思い、このテーマを取り上げました。

■具体的なイメージは

…4月の選挙の際、尾崎市長は選挙公報にも「日本一子育てしやすいまちをめざします！」と大きく掲げていました。そして、「子育てしやすいまちづくり」について示していた施策は

①待機児童の解消

②出産から育児までの少子化対策

③妊娠、出産、育児、不妊などの相談業務の充実でした。そのほかに「子ども」に関連する施策という点では「地域力・教育力の向上をめざします」というものがあり、そこに示されていたのは

①学習意欲向上の施策の充実

②学校施設の安全確保

③英語教育の充実

④教育ボランティア活動の充実

⑤市民大学の充実

というものでした。

…「日本一子育てしやすいまちづくり」という施策についての市長答弁は「当市では今後、少子高齢化が進行し、人口減少が見込まれている。そのような状況の中で東大和市が将来にわたって持続していくための施策として、将来を担う子ども達への支援が重要だと考え、平成27年度の施策の一つの目標として『日本一子育てしやすいまち』を掲げた。また、国が進める地方創生や人口減少の抑制の施策は市が計画する子育て支援施策のより一層の推進の契機となると考え、総合戦略の中でも『日本一子育てしやすいまち』を目指し、出生率の向上などを図っている。」という内容でした。…また、子育てしやすいまちづくりに関連する具体的な事業については「子育てに直接関係するものとしては、妊産婦への支援、乳幼児の育成支援、保育所や学童保育の充実、小中学校の学力の向上、教育環境の整備などがあげられる。また、安心して暮らせる環境という観点からは、防犯防災体制の充実、自然環境の保全、公園の整備などがあげられる。」との答弁。また、「これら『子育てしやすいまちづくり』に関連する事業は広範囲のため、全庁的な取り組みとして進めていくとともに、『子育てしやすいまちづくり』ということ常を意識し、庁内の連携を図っていく必要があると考えている」とのことでした。

…そのほかの項目の市長答弁でも、具体的な『子育てしやすいまち』のイメージはわからず、その目標は「出生率の維持向上」「転入の増加」「転出の抑制」といった、人口減少抑制に関するものが答弁の主な内容でした。（裏面に続く）



■東大和市の現状は

…仮に東大和市が「日本一子育てしやすいまち」になったとしても、子育て世代の人が居を構える時には、職場からの距離など、現実的なエリアを考えることが大半だと思います。例えば都心からのアクセスで同じような環境にある自治体、もしくは近隣自治体と比較して東大和市の子育て環境を見たときに、どのような位置になっているのか、また、どのような評価（評判）になっているのか。そして、東大和市の優っている点、足りていない点などを客観的に分析することが、目標達成のスタートだと考えます。そのような分析をしたことはあるのかという質問に対し市からは「他の自治体と比較して分析をしたことはない」との答弁でした。

…では、現在住んでいる市民からの評価についてはどうでしょう。平成 25 年度に実施した「子ども・子育てニーズ調査報告書」では「子育て環境や支援への満足度」について約 4 割が改善を求めており、「今後、さらに東大和市で子どもを産み、育てたいと思っているか」の問いに対し「思わない」との回答をした方は未就学児の親は 41.5%、就学児の親は 55.5% となっています。

…これは、学校教育等、子ども自身が得られる教育、様々な機会等にも子育てをする人の関心が高いことの現れだと思います。ちなみに、文部科学省で出している全国の私立学校の生徒の割合は、小学校では 1%、中学校では 7%。私立に行く理由は様々で一概には言えませんが、東日本大震災後、災害が発生した時を考え、自宅近くの学校に通わせたいという傾向が強まったとされている中でも、東大和市では小学校で 2.2%、中学校で 8.8% と、地元の公立学校を選ばない比率も高くなっています。昨今、各自治体では、その自治体独自の教育をアピールすることも多い中、市内のどの小学校、中学校に通学しても同じように受けられる「東大和市ならではの」教育の取り組みも必要ではないかと伝えました。

■注目している自治体との違いは

…先に述べたように、人口減少、少子高齢化という問題を解決するために、全国の自治体が「子育て世代」＝「現役世代」＝「納税者」を確保しようと考えています。雑誌などでも子育てしやすい自治体ランキングを出したり、不動産情報などでも子育て環境を分析したデータなどを発表しています。そんな中、全国的に子育て施策で注目されている自治体もあります。東大和市にはどこか注目している自治体はあるのかという問いについては「千葉県流山市」を注目しているとの答弁。

…流山市は、自治体でいち早くマーケティングを取り入れ多くの施策を系統立てたうえで取り組んでいる自治体です。「母になるなら・父になるなら流山」という

キャッチフレーズで市を PR するなど新たな取り組みを行っています。しかし、流山市の施策を見てみると、子育て支援や教育の充実というのは「目標」ではなく「目標を実現するための取り組み」と位置付けられているように見えます。流山市は「シティセールスプラン」というものを作り、目標を定住人口増加、憧れの街になることとし、共働きの子育て世代が訪れたい、住みたい自治体になるための施策を推し進めています。それが市民の満足度の向上、現役世代の人口増加にもつながり、成功事例として様々なところで取り上げられ、シティプロモーションが注目されるようになりました。多摩地域の自治体においても、シティプロモーション、町のブランド化が注目され、住んでいる市民が「選んでよかった」「人に薦めたい」自治体になる必要性を多くの自治体が認識しています。

■ビジョンは「選ばれるまち」なのは

…最初の市長答弁にもあったように、東大和市も人口減少、少子高齢化に歯止めをかけたいと考えています。今後、様々な行政サービスを充実させるためには、それを下支えする現役世代の人口を増やす必要があります。今回の質問の答弁には「今、人口が増えているのは主に市の南側に集合住宅や戸建てが建築されたことが要因で、それを追いかけるように保育所などの整備を市が行っている状況」というものがありました。今後は、東大和市が積極的に選ばれるよう、「選ばれる行政サービス」を実現し、現役世代の人口が増え、市民全体への行政サービスがさらに充実するという好循環をつくる取り組みを系統立てて実行すべき。

…例えば「病児送迎サービス」など、東大和市は他自治体に先駆けたサービスも行っています。しかし、このような施策も「点」で終わっており、PR も不足気味でもったいないと思います。今後は、ビジョンを明確にし、それを庁内だけでなく、市民にも知らせ、それに向かっていることが実感できるようにすべきです。…今議会中、ほかの議員が歩道の拡幅などを取り上げた際、市長が「すべての人にやさしいユニバーサルデザインは、観光にも良い」と答弁したことは、今回の目標から見て少し驚きました。ここは「子どもにも、ベビーカーにも優しい」と当然のように答えてほしいと伝えました。

…また、目標を実現させる体制も必要です。質問の最後に市長は「今回は目標を達成するために既存の計画も変えるくらい柔軟に取り組む。また、シティプロモーションには専門的な知識があるので、そういう人材を外に求め、専門部署をつくることも考えている」と発言。このようにはっきりと明言されたことは喜ばしいことです。今後の変化に期待したいと思います。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」
【プロフィール】



1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山奥の小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。／「学校」の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。／『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報などに従事。2011年4月、初当選。顔の見える議員として、日々奮闘中。

東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>
✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102